

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(理学療法学科 I)
2024.4.1現在

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
人間発達学	平間 亮	30	必修	講義		3 幼児期の骨折、白血病などの難病を病院や訪問リハビリで経験しました。成長過程にある骨の特徴や正常な発達過程の知識が重要です。またリハビリの対象者が幼い場合は保護者への説明や同意が必須となります。ご家族の育児状況や生活への影響の理解も信頼関係を深める上では非常に重要となります。覚える量も膨大なため、記憶に定着しやすい覚え方のポイント、語呂合わせなども行ってまいります。
理学療法概論(研究法) I	村田薫克 水野靖廣 後藤洋平 笠原靖子 平間 亮 平澤 勉	30	必修	演習		3 村田：理学療法の分野でも自分が研究したことを世の中に出していくことは非常に大切な経験と財産になります。簡略化されている部分もありますが、伝える方法を少しでも学べるようにしていきますので頑張って授業を進めていきましょう。 水野：研究をすることによって理学療法の難しさ、奥深さ、何より面白さを体験することが出来ます。基本的にはグループで協力し合い実施していきますので、身勝手な行動は控え全員で助け合って一つの成果物を仕上げましょう。 後藤：臨床にでると、疑問も多く、文献を散見する機会は多くあります。自分自身で疑問に対し知識を深めていくことは理学療法士として必要な能力であり、論理だてて学会発表や文献に起こすことで後世に残るものとなります。一緒にしっかり学びましょう。 笠原：研究は、身近ななぜ？どうして？どうなるのか？など興味や疑問に思った事をグループで考えます。結果のみでなく、1つの事を成し得る達成感・充実感の大切さを学ぶように授業を行います。 平間：2年時に上級生の研究を見学しておりますのでイメージがしやすいと思います。当時に上級生も幾多の困難を乗り越えていました。担当になる教員と相談し、グループ間でも協力して経験を積み重ねていきましょう。
動作分析学 II	後藤洋平	30	必修	演習		3 理学療法士は動作分析のスペシャリストです。理解すれば実習中の先生方が同じように患者さんを観察していても、そこから得られる情報に差がある理由がわかります。その思考は様々な疾患だけでなく、小児疾患やアスリートリハビリでも応用できます。また臨床に出ても必要な評価項目を厳選でき、患者さんの負担は軽減し、治療時間を確保できます。さらには治療効果の判定にも有効活用できます。動作分析する思考を身につけましょう。
検査・測定法 V	村田薫克	30	必修	演習		3 私は急性期病院で10年間働き、その後も整形外科クリニックで臨床を10年以上経験しています。しかし、いまだに何が治療として正しいのかは難しく、多くの答えがあるのも理学療法だと思っています。悩むにも知識がないと十分考えることはできずいまだに日々勉強だと思っています。将来自分の治療に自信が持てる理学療法士になれるよう、今から臨床推論の思考過程を鍛えていきましょう。
疾患別運動療法演習 中枢 I	片寄純一	30	必修	演習		3 主に回復期リハビリテーション病棟で脳卒中患者の理学療法を実施してきました。その他、外来リハビリ、急性期リハビリ(ICU含む)、通所リハビリ、訪問リハビリ、老健、教員などの経験があります。現在以上記回復期での勤務のため、基礎理論の復習を行いながら、実際の理学療法の見聞を交え授業を行ってまいります。
疾患別運動療法演習 中枢 II	平間 亮	30	必修	演習		3 病院を退院しても病気が治るわけではありません。私自身病院の勤務を経てデイサービスや訪問リハビリテーションで働いた経験を活かして、どのように理学療法を進めてきたのかをお伝えします。また、病氣と向き合う本人と家族、サポートする医療や介護体制についての現状についてもお伝えします。
疾患別運動療法演習 中枢 III	後藤洋平 平間 亮	30	必修	演習		3 病院、クリニック、デイサービス、訪問リハビリテーション等で働いた経験から得た知識を活かし、教科書の知識だけでなく、実際の臨床ではどのような症状がみられるか、またどのような理学療法を行うのかを伝えていきます。
疾患別運動療法演習 整形 I	後藤洋平	30	必修	演習		3 整形疾患を呈した方のリハビリテーションにおける重要な視点は、基礎知識をリンクさせることです。整形疾患は小児から高齢者まで多くの年代の方が対象になり、小児やスポーツの分野等でも必ず必要な知識になります。しっかりと整形疾患に対する考え方を学んでいきましょう。
疾患別運動療法演習 整形 III	水野靖廣	30	必修	演習		3 理学療法士として整形外科で実務経験がある教員が、脊髄損傷、切断ともに基礎科目である解剖学、生理学から講義します。基礎を理解してから自律神経過剰反射や異所性骨化、脊髄ショック、拘縮などの合併症、ブラウンセカール症候群や脊髄空洞症などの評価、病態を解説していきます。また、講義内に確認テストを実施します。この確認テストは成績評価の一部となりますので普段からの授業を大切にしてください。
疾患別運動療法演習 内部 I	平間 亮 平澤 勉	30	必修	演習		3 理学療法士として呼吸関連は疾患としてだけでなく、人工呼吸器などの離脱でも理学療法士が関与することが多くなってきています。近年では病院でも理学療法士が気道内分泌物を吸引することが増えてきています。もちろん吸引ができないと症例は窒息で生命維持が困難になります。生命に関わる知識ですのでしっかり勉強しましょう。
疾患別運動療法演習 小児	原田隆之	30	必修	演習		3 一般社団法人Re Smileでは、2012年に制度化された放課後等デイサービス(障がい児が学校後や休日に通う施設)において、全国でも珍しいリハビリに特化した運営を行っています。講義の中では、利用児・ご家族の協力を得て、写真・動画を駆使しながら、実際のリハビリ現場をイメージしやすいように行なっていきます。
合計		330		時間		

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表(作業療法学科)
2024.4.1現在

科目名	担当者	時間数	必修・選択の別	授業形態	配当年次	授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
作業療法概論(研究法)	石田敦子 伊藤大貴	30	必修	演習		石田:臨床の傍ら回復期病院の実態調査や臨床研究を行い、大学院では脳機能計測や動作解析装置を使用したIADL動作解析、工学部との合同研究など多様な研究を行いました。国内外での論文発表、学会発表経験もあります。現在も国立長寿医療研究センターで研究補助員として研究を行っています。学生の持ち寄りアイデアは非常にユニークで驚かされます。合同研究を行うつもりで授業をさせていただきます。 伊藤:総合病院にて幅広い治療業務だけでなく、管理業務や後輩指導を担当。運転支援や訪問リハビリテーションの立ち上げに携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する研究を複数実施。日本作業療法学会をはじめ、日本高次脳機能障害学会、日本リハビリテーション医学会などで学会発表を行う。2021年、認定作業療法士を取得。自身の経験談も交えて、研究の楽しさを伝えていけたらと思っています。
作業療法評価法Ⅲ	日比和宏	30	必修	演習		3 整形外科中心の病院で急性期から維持期まであらゆる疾患、特に上肢の整形疾患、脳血管疾患を中心に治療した経験を持つ。現場での経験をもとに実践的な評価技術を提供する。
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅰ)	杉野潤也	30	必修	講義		3 介護老人保健施設、訪問リハビリテーションを中心とする地域リハビリテーション、一般病院等の臨床現場を経験してきた。経験談も交えつつ、基礎的な治療の必要性や対象者にあわせた応用的な治療の考え方、技術などを伝えていく。
作業治療学Ⅰ(身体障害Ⅱ)	石田敦子 伊藤大貴	60	必修	演習		3 身障領域、地域領域の経験があり、特に在宅での自立生活に向けて福祉用具の選定や評価を実施してきました。疾患特性を踏まえた自助具作成を通して、具体的な対象者をイメージしながら支援する経験を積んでもらいたいと思っています。(石田) 急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として携わる。そのなかでも、高次脳機能障害に対する評価・治療に対し中心的に介入。学会発表も多数実施している。(伊藤) 対象者・家族のリアルなニーズとデマンドに対して、どのような治療を行ってきたのかエピソードトークも交えてお伝えします。
作業治療学Ⅱ(精神障害Ⅰ)	中村千紘	60	必修	講義		3 精神科病院において、病棟作業療法、訪問看護、デイナイトケアを担当する。その後、メンタルクリニックにてリワーク・デイケアの立ち上げを担当した。その経験をいかし、精神科の基礎知識についての講義授業を担当する。
作業治療学Ⅲ(発達障害Ⅰ)	杉野潤也 伊藤大貴	30	必修	講義		3 一般病院、介護老人保健施設、訪問リハビリテーションでの約11年間の臨床経験をもとに発達障害領域の作業療法について講義を行う。(杉野) 約8年間、急性期から回復期、維持期に至るまで作業療法士として関わってきた。小児から高齢者まで幅広い対象者に対し治療を行ってきた。(伊藤)
作業治療学Ⅳ(老年期障害Ⅰ)	藤野頼貴 石田敦子	30	必修	講義		3 藤野:認知症治療病棟・重度認知症デイケア・訪問看護からのリハビリテーション・デイサービスにて勤務し、認知症をはじめとする高齢者へのリハビリテーションに従事してきました。また地域などでも認知症カフェ等での講師を行ってきたため、医学的リハビリテーションのみならず、予防領域においても地域包括ケアシステムの一役を担えるように授業を展開します。 石田:高齢者施設での訪問看護ステーションでリハビリチームをまとめ、作業療法士としては本人、家族、多職種と共に活動・参加の焦点を当てたアプローチを実施してきました。加齢によって失われる機能だけに注目するのではなく、経験を重ねた年長者に対して尊敬の気持ちで接することができるようコミュニケーションのコツや生活スタイルの着目点などを伝えていきたいと思っています。
義肢装具学Ⅰ	廣島 淳	30	必修	講義		3 医療機関等で義肢装具士として、現在も活躍中である非常勤講師が、体験談などを交え、義肢装具の概要を講義し、国家試験に必要な知識を学ぶ科目である。
義肢装具学Ⅱ	吉井宏騎	30	必修	演習		3 整形外科領域でも手の外科やリウマチ科での臨床経験が長いのでそれを生かした治療用装具の実践を踏まえ、基本的な製作演習により、適合に必要な要点を伝える。作業療法士として臨床の場に立った際に役立つ考え方や技術を学んでいただき、スプリント製作を自身の選択肢にしていけることができるよう、楽しい体験型の実技により成功体験を得られる授業を行う。
合計		330		時間		